

女伏

白秋全集
7

歌集
2

白秋全集 7

第四回配本(第I期 一〜二四卷)

一九八五年三月五日 発行

定価三五〇〇円

著 者 北 原 白 秋

発行者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目五番五
発行所 銚子 岩 波 書店

電話 〇三三六二
振替東京六二六四〇

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目次

『雲母集』

新生序歌	五
力	六
卵	六
大鴉	六
犬	七
魚介三品	八
穴	八
薔薇	九
雲	九

流離抄	二
三崎哀傷歌	三
大川端	五
枯草ぐるま	六
三崎新居	七
三崎新居	八
新生	八
不尽抄	八
同じく	九
五月	二〇
ある時は	二〇
生きの身	三
雲母雲	三
水垂	四
崖の上の歎語	四

深淵 二五

蓴菜 二六

眼鏡橋 二七

白日逍遙 二八

城ヶ島 二九

海外の浜 三〇

菖蒲園 三一

遊ヶ崎遊泳 三一

山海經 三二

狐のかみそり 三三

海光 三四

赤硝子 三五

寂しき日 三六

鰻 三六

海底 三〇

海峡の夕焼 四一

城ヶ島の落日 四二

良夜 三

深夜 四三

自然靜觀

連 吳

舟 罍

雨の霽り・・・・・・・・・・七七

薔薇靜觀……………哭

[illegible]

地面と野菜・・・・・・・・・・五

地面と野菜 三

投網うちの帰途 五

昼休憩・・・・・・・・・・・・・

泥豚 五

丘の立秋・・・・・・・・・・ 天

犬の小便・・・・・・・・・・

秋高し・・・・・・・・・・弄

vii 目次

隣の厨	．．．．．	六
渚の西日	．．．．．	九
童子抄	．．．．．	一〇
雪夜	．．．．．	一〇
雪後	．．．．．	一〇
馬の灸	．．．．．	一〇
不尽の雪	．．．．．	一〇
竜胆抄	．．．．．	一〇
三崎遺抄	．．．．．	一〇
雲母集余言	．．．．．	一〇

絵画

KIRARA-SYU	．．．．．	[單行本] 図画
蕪と河豚	．．．．．	[單行本] 表紙
地面と野菜	．．．．．	五
水村晩秋	．．．．．	七
閻魔の反射	．．．．．	八
麗日	．．．．．	九

『雲母集』増補

『雲母集』白秋文庫版

文庫版『雲母集』覚書 二三

『雀の卵』

大序 二九

葛飾閑吟集 三

序に代へて 二五

葛飾前歌 一五

薄野(二五) 白馬(一五)

黍(二五) 雀子嬉遊(二五)

蓮花(二五)

真間に移る 一六

野ゆき山ゆき 一七

紫蘭咲く	一五
月夜	一五
燕	一五
雨のころ	一五
物の芽	一五
雨滴	一五
蟹と竹	一五
蜻蛉	一五
晴日小閑	一三
朝	一三
夕	一三
昼	一三
鳥の啼くころ	一三
棗の花	一三
三谷に移る	一三
前庭	一三
紫煙草舎	一三
飯を食みつつ	一三
向う土堤	一三
農家小景	一三
浅夜	一三
馬屋の前	一三
背戸	一三
藪蔭	一三

蜚四章	二六
朝(二六)	
昼(二六)	
夜(二六)	
雨(二六)	
涼味	二六
樽咲く(二六)	
雨間(二六)	
時化前(二六)	
日ざかり	二六
松山(二七)	
蜻蛉(二七)	
膠煮てゐて(二七)	
かくれんぼ(二七)	
牛	二七
群蝶の舞	二七
揚羽の蝶	二七
アッシジの聖の歌	二七
贈り物	二七
蓮の花と童(二七)	
曼陀羅村にて(二七)	
こども	二八
おなじく(二九)	
唐黍	二九

閑吟五抄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六〇

木の上に（二八〇）

貧しさに（二八〇）

百日紅咲く（二八一）
寂しさや（二八一）

米の白玉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六二

犬と鴉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六五

月下の蝶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六七

田園の立秋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六八

秋近し（二八六）

門前の立秋（二八六）

畔（二八六）

空は晴れて（二八六）
蓮の花探り（二八六）
蓮の雨（二八六）

木槿と雀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六〇

三日の月夜・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六〇

二百二十日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六二

月夜こほろぎ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六二

庭前秋景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六二

良夜・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六二

月前秋景（二八三）

河べり（二八三）

庭前の秋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一六五

松 風	．．．．．	夕 焼	(一九)	．．．．．	一九四
栗 鼠	(一九)	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．
田圃の晩秋	．．．．．	夕 照	(一九)	．．．．．	一九四
向ひ風	(一九)	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．
庭前の晩秋	．．．．．	閑けさ	(一九)	．．．．．	一九六
落 葉	(一九)	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．
水辺の晩秋	．．．．．	泊り船	(一九)	．．．．．	一九六
薄に雀	(一九)	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．
冬日小閑	．．．．．	独 楽	(一九)	．．．．．	一九七
射 干	(一九)	新 酒	(一九)	．．．．．	．．．．．
椰子の実	(一九)	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．
時 雨	．．．．．	日の暮	(一九)	．．．．．	一九六
松 風	(一九)	田 圃	(一九)	．．．．．	．．．．．
松が根	(一九)	初夜過ぎ	(一九)	．．．．．	．．．．．
朝	(一九)	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．
霜の田	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．	一九一
霜と雀	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．	一九一
立枯並木の歌	．．．．．	．．．．．	．．．．．	．．．．．	一九一

潮来の入江 104

潮来抄 104

田家の冬枯 104

野良の晩冬 104

枯尾花(105) 薄と牛(107)

蒲の穂 107

雀の宿 107

柿日和(108) ふと見たら(110)

古池の朝(108) この冬は(110)

一色に(108) 今さらに(110)

咳すれば(108) 追儼(111)

かげ(110)

冬枯遺抄 111

刈小田(111) 古利根(111)

田の畔(111)

寒 111

路上(111) 夕照(111)

空(111) 山松風(111)

野川(111) 同じく山上(111)

夜の雪	二四
竹あちこち	三五
浅春雑歌	三五
椿(三三)	
雨後の月(三六)	
春立つ(三六)	
春の耕田(三六)	
春雨	二九
夕べの虹	二九
輪廻三鈔	三九
序	三一
流離鈔	三三
風懷	三四
一人のこる	三四
嶋の永日一	三五
嶋の子(三五)	
信天翁(三六)	
海亀(三五)	
弟嶋を眺む(三六)	
荒磯の洞(三五)	
嶋の永日二	三六